



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

エグゼクティブ・サマリー

さらなる高みを目指して：
バリューチェーンを超えた
緩和（BVCM）の策定と
実施に関するSBTi 報告書

2024年2月

謝辞

本書は、サイエンス・ベースド・ターゲッツ・イニシアチブ (SBTi) が作成しました。

この報告書は、Gordon and Betty Moore Foundation (ゴードン&ベティ・ムーア財団) 及び Climate and Land Use Alliance (クライメイトアンドランドユースアライアンス) から一部の資金提供を受けています。資金提供者は、必ずしも本報告書で示されている立場を共有するものではありません。

また、以下に述べる方々には、本書を英語から日本語、フランス語、標準中国語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語に翻訳する際にご尽力いただきました。Akihiko Haga (羽賀秋彦)、Aline Bayon (アリーン・バイオン)、Brenda Chan (ブレンダ・チャン)、Esteban Badilla (エステバン・パディラ)、Fernanda Carvalho (フェルナンデ・カルヴァーリョ)、Hana Zayed (ハナ・ザイド)。

Systemiq、Climate Focus にも本報告書の作成にご協力いただきました。

SBTiはさらに、BVCM専門家諮問グループおよびSBTiパートナー組織作業グループのメンバーご一同にも感謝申し上げます。Alexander Farsan (アレクサンダー・ファルサン)、Angela Anderson (アンジェラ・アンダーソン)、Amir Safaei (アミール・サファエイ)、Amir Sokolowski (アミール・ソコロフスキー)、Andika Putraditama (アンディカ・ブトラディタマ)、Anita Otubu (アニタ・オトゥブ)、Anshari Rahman (アンシャリ・ラーマン)、Bhaskar Singh Karky (バスカール・シン・カーキー)、Bogolo Kenewendo (ボゴロ・ケネウエンド)、Brad Schallert (ブラッド・シャラート)、Candace Vinke (キャンディス・ヴァインケ)、Carlijn Nouwen (カルライン・ヌーウエン)、Chandra Shekhar Silori (チャンドラ・シェカール・シロリ)、Chidi Oti-Obihara (チディ・オティ・オビハラ)、Daniel Zarin (ダニエル・ザリン)、David Burns (デビッド・バーンズ)、Derik Broekhoff (デリク・ブロークホフ)、Diksha Pillay (ディクシャ・ピレイ)、Disha Agarwal (ディシャ・アガルワル)、Donna Lee (ドナ・リー)、Duan Maosheng (ドゥアン・マオシェン)、Elijah Innes-Wimsatt (イライジャ・インネス・ウィムサット)、Emma Stewart (エマ・ステュワート)、Frances Seymour (フランシス・シーモア)、Gabriel Chaves Barboza (ガブリエル・チャベス・バルボザ)、Gilles Dufrasne (ジール・デュフラスヌ)、Hans Näsman (ハンス・ナースマン)、Hilda Galt (ヒルダ・ガルト)、Hilde Stroot (ヒルデ・ストゥールト)、Jenny Ahlen (ジェニー・アーレン)、John Holler (ジョン・ホラー)、Johnny White (ジョニー・ホワイト)、Juliette de Grandpre (ジュリエット・ド・グランプレ)、Karol Gobjczynski (カール・ゴブチンスキー)、Kelley Kizzier (ケリー・キジエ)、Kerry Constabile (ケリー・コンスタビレ)、Keyvan Macedo (キーヴァン・マセド)、Kuki Soejachmoen (クキ・ソエジャックモーン)、Mark Kenber (マーク・ケンバー)、Meera Atreya (ミーラ・アトレヤ)、Melissa Gallant (メリッサ・ギャラン)、Morten Rossé (モーテン・ロッセ)、Nguyen Phi Hung (グエン・フィ・フン)、Paola Delgado Luna (パオラ・デルガド・ルナ)、Patricia Pinho (パトリシア・ピント)、Paul Vermaak (ポール・ヴァーマーク)、Pedro Faria (ペドロ・ファリア)、Rob Macquarie (ロブ・マクコーリー)、Robert Höglund (ロバート・ヘグルンド)、Roberta Barbieri (ロベルタ・バルビエリ)、Ronan Hodge (ローナン・ホッジ)、Ruhana Zariwala (ルハナ・ザリワラ)、Simon Petley (サイモン・ペトリー)、Stephan Singer (ステファン・シンガー)、Tanja Havemann (タニャ・ヘーヴマン)、Tereza Bicalho (テレサ・ビカーリョ)、Thiago Chagas (チアゴ・チャガス)、Tim Juliani (ティム・ジュリアーノ)、Tim Young (ティム・ヤング)、Xiaolu Zhao (シャオル・ザオ)、Zeke Hausfather (ジーク・ハウスファーザー)。

最後に、SBTi は審査を担当した [SBTi 技術評議会](#) に感謝申し上げます。

免責事項:

Although reasonable care was taken in the preparation of this document, SBTi hereby states and affirms that the document is provided without warranty, either expressed or implied, of accuracy, completeness, or fitness for purpose. SBTi hereby further disclaims any liability, direct or indirect, for damages or loss relating to the use of this document to the fullest extent permitted by law. This document is based on a voluntary framework or procedures and is not intended to replace the legal or regulatory requirements of any country.

The information (including data) contained in the document is not intended to constitute or form the basis of any advice (financial or otherwise). SBTi does not accept any liability for any claim or loss arising from any use of or reliance on any data or information in the document.

SBTi accepts no liability for the reliability of any information provided by third parties. Applicable to all documents where copyright is asserted.

This document is protected by copyright. Information or material from this document may be reproduced only in unaltered form for personal, non-commercial use. All other rights are reserved. Information or material used from this document may be used only for the purposes of private study, research, criticism, or review permitted under the Copyright Designs & Patents Act 1988 as amended from time to time ('Copyright Act'). Any reproduction permitted in accordance with the Copyright Act shall be acknowledged.

© SBTi 2024

Partner Organizations:



United Nations
Global Compact



WORLD
RESOURCES
INSTITUTE



In collaboration with:

WE MEAN
BUSINESS
COALITION



作成者:

Scarlett Benson (スカーレット・ベンソン)
Alice Farrelly (アリス・ファーレリー)
Emma Watson (エマ・ワトソン)
Haley Kazanecki (ヘイリー・カザネッキ)
Martina Massei (マルチナ・マッセイ)
Astrid von Preussen (アストリッド・フォン・プロイセン)
Charlotte Steck (シャーロット・ステック)
Danick Trouwloon (ダニック・トゥウウルーン)

プロジェクト/内部審査チーム:

Alberto Carrillo Pineda (アルバート・カリロ・ピネダ)
Aman Sidhu (アマン・シドゥー)
Christa Anderson (クリスタ・アンダーソン)
Emma Borjigin-Wang (エマ・ボルジギン・ワン)
Hugo Ernest-Jones (ヒューゴ・アーネスト・ジョーンズ)
Luke Pritchard (ルーク・プリチャード)
Maria Outters (マリア・アウトターズ)
Martha Stevenson (マルタ・スティーブソン)
Paulina Tarrant (ポーリナ・タラン)
Piera Patrizio (ピエーラ・パトリシオ)
Roman Czebiniak (ロマン・チェビニャク)
Rosie Williams (ロージー・ウィリアムズ)

序文

世界は、地球温暖化の1.5°Cの閾値を超える危険な状況に近づいており、すでに何十億人もの人々が気候変動の影響を受けて苦しんでいます。気候変動がもたらす最も壊滅的な影響を回避し、新しくより良い成長の形を解き放つために用意されている機会の窓は、急速に閉ざされつつあります。

民間セクターは、投資、技術革新、ビジネスモデルの転換、そして資金フローをネットゼロの未来に整合させることを通じて、先々の危険を回避するうえで重要な役割を担っています。

そういったことから、サイエンス・ベースド・ターゲット・イニシアチブ (SBTi) を通じて1.5°C経路に沿った排出削減に取り組む企業が急速に増加し、このような企業が2022年には世界中の全ての大陸で増加していることを目の当たりにするのは、大変心強いことです。

とはいえ、民間セクターの気候ファイナンスは必要とされるペースでは増加しておらず、またパンデミック後の公的資金の注入には現実的に制約があります。それはすなわち各国政府、多国間組織、そして民間セクターとの協調的な資金パートナーシップによる、強力な相乗効果を生み出すための手付かずの機会があるとも言えます。

ゆえに、SBTiによるバリューチェーンを超えた緩和 (BVCM) の推奨事項は、気候変動による莫大なリスクを管理し、長期的な価値を高めることに取り組む企業にとって重要、かつ、タイムリーな情報源なのです。

民間セクターによるBVCMへの投資は、持続可能で低炭素、強靭な成長に向けた負債のない資金源へのアクセスを可能にすることができます。適切に集約されれば、これは債務制約の強い多くの発展途上国にとって貴重な戦略的資金源となります。

誠実であること (インテグリティ) が最優先です。企業は自社のバリューチェーンを超えた緩和活動に向けて投資することを、スコープ1~3の排出量を減らすための努力に置き換えてはなりません。資金は、炭素の社会的費用を反映した価格で真の追加的な緩和措置を提供するものでなければならず、それは時間とともに上昇していくでしょう。低炭素社会への移行における社会的な側面も重要です。BVCMは、気候変動に対する責任が最も軽く、かつ、より脆弱な最貧国で必要とされる公正な移行と投資に向けた資金調達を促進する一助となり得ます。

民間セクターの企業には、そのバリューチェーンの内外において気候変動対策に投資することで新しい経済を形成するための強力な機会があります。私たちが子供や孫のために大災害を回避しなければならないのであれば、BVCMに関するSBTiの推奨は、不可欠な投資の質と量の双方を達成させることに合致しており、その促進に役立つものです。

Lord Nicholas Stern ニコラス・スターン卿

ロンドン・スクール・オブ・
エコノミクス
気候変動・環境に関する
グランサム研究所所長



現在の生産と消費のシステムは、気候変動、生物多様性の損失、汚染と廃棄物という三重の世界的危機を引き起こしています。その結果、社会不安が増大し、強靭性（レジリエンス）が低下し、社会経済と環境が悪化するという悪循環に陥っているのです。

科学は明白です。私たちは、生産システムの効率を向上させる供給側の対策と、資源の使用と生産・消費全体を削減する需要側の対策を実施することにより、経済を脱炭素化させ、非物質化しなければなりません。自然を保護・回復・再建し、世界中の人々の幸福（ウェルビーイング）を支える形での天然資源管理を通じて、私たちは世界的危機の根本原因に対処しなければなりません。

元ブラジル環境・気候変動大臣として、また国際資源パネルの共同議長として、私たちが直面している地球規模の環境問題には、地球規模の解決策が必要であるということ、私は自覚しています。さまざまな分野からの関係者が、公正で現実的、かつ解決策を目指す形で進めていく上では、多様な関係者の参加が必要です。

企業は、この取り組みにおいて根本的な役割を担っています。バリューチェーンを超えた緩和（BVCM）に関するSBTiの新しい報告書は、こうした三重の世界的危機に対処する企業のリーダーシップを定義する際に重要な一歩となります。大手企業は、科学的根拠に基づく排出削減目標にとどまらず、他の経済的・社会的主体による排出量の削減を支援することが不可欠です。



Izabella Teixeira
イザベラ・テイシェイラ

元ブラジル環境・気候変動大臣兼
国際資源パネル共同議長

気候危機を解決するためには、大規模な森林保全・復元、新しいエネルギーソリューションの導入から、大気中のCO₂を除去し、貯蔵する技術の開発に至るまで、幅広い解決策を展開する必要があります。

私は、2018年にテクノロジー主導の気候と自然プラットフォームであるMilkywireを設立し、企業や個人が世界の気候に関する目標を達成するために必要なさまざまなソリューションを支援できるようにしました。弊社のClimate Transformation Fund (CTF) は、革新的な気候変動プロジェクトへの貢献に重点を置き、支出1ドルあたりの長期的なCO₂削減または除去量を最大化することを目指しています。

気候変動における企業のリーダーシップとは、バリューチェーンの排出量を削減することを意味しますが、同時にBVCMを通じて未対策の排出量について責任を負うことでもあります。BVCMは、企業が世界の気候目標に貢献する際の重要なツールなのです。そのため、私はこの話題に関し、SBTiが企業にとって必要となる指針を示したことを歓迎します。なかでも、BVCMに関するSBTiの原則（規模、資金ニーズ、共同便益や気候正義）は、企業をインテグリティが高く、影響力の大きい投資へと導くうえで非常に有益です。

Milkywireでは、ゴールドスタンダードと協力し、BVCMを運用する企業に対し追加的な指針を提供するための作業を進めています。これは、現在SBTiが提供している強固な基盤を補完し、それを構築するものです。

Nina Siemiatowski
ニーナ・シーミアトウスキー

Milkywire創業者兼CEO





エグゼクティブ・ サマリー

エグゼクティブ・サマリー



気候危機と企業の気候変動対策

世界は1.5°Cの閾値を超えようとする危険な状態に近づいており、これを超えると、人類や他の生物種は存続に関わる不可逆的な悪影響に晒されます。最も深刻な気候変動による影響を避けるためには、地球の平均表面温度を1.5°C以下の温度上昇に安定させなければなりません。これは、遅くとも2025年までに温室効果ガス（GHG）排出量がピークに達し、2030年までに排出量を半減させ、今世紀半ばまでに二酸化炭素排出量（CO₂）を実質ゼロにすることを意味します¹。

影響はすでに世界中に及んでいます。現在の温暖化レベル（0.95~1.2°Cと推定）では、すでに数千万人もの人々が極端な気温に晒されています^{2, 3}。2022年、気候変動とラニーニャ現象により、総合損失は2,700億米ドル、保険会社の損失補償額は1,200億米ドルに達しました⁴。

気候危機対策の進捗状況は、十分ではありません。世界的に表明されている気候変動緩和策及び気候資金のレベルと、気温上昇を1.5°Cに抑えるために必要とされるレベルの間には、重大な乖離があります。試算によれば、2023年から2030年の間に年間8.4兆米ドルを超える緩和資金が必要となり、その後の20年間では年間10.4兆米ドルにまで増加するとされています。これに対し、現在では年間1.2兆米ドルに過ぎません⁵。

民間セクターによる排出削減目標の導入は、企業のバリューチェーンにおける排出削減への取り組みにおいて重要な役割を果たすことができます。これは、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書（AR6）にある「すべての部門で即時かつ大幅な排出削減を行わない限り、地球温暖化を1.5°Cに抑えることは達成できないだろう」という記述に一致しています⁶。

しかし、企業のバリューチェーンを超えて発生する排出量を緩和するための資金を触媒として活用することも重要であり、その多くは一般的に従来の資金メカニズムでは十分に供給されていません。たとえば、国連環境計画は、企業のバリューチェーンの内外において、自然に基礎を置いた解決策に対する民間セクターの資金提供を劇的に、かつ、迅速に増やす必要があることを強調しています⁷。


バリューチェーンを超えた緩和 (BVCM) の概要

SBTiは企業や金融機関の、最新の気候科学に沿った野心的な排出削減目標の設定を促す世界規模の団体です。SBTi企業ネットゼロ基準は、企業が1.5°Cに沿った気候目標を設定するための指針、基準、推奨事項を提供しています。企業は、バリューチェーンの排出量を削減し、遅くとも2050年までに1.5°C目標に沿った残余レベルに到達するための、短期および長期の目標を設定することが求められます。企業はさらに、ネットゼロ目標年に残余排出量と、それ以降に大気中に放出される温室効果ガス排出量の気候への影響を、大気中の炭素を永久的に除去・貯蔵することによって中和させることが求められます⁸。

SBTi は、バリューチェーンを超えた緩和 (BVCM) を推進し、企業が他の経済的・社会的主体による温室効果ガス排出量の削減・除去を支援し、気候変動の一因となる未対策の排出量に対して責任を持ち、ネットゼロに向けた世界的進展を加速させることを推奨します。BVCMの活動と投資は、企業の温室効果ガス排出インベントリのスコープ1、2もしくは3においては計上されていないため、バリューチェーンの排出削減目標の達成においては考慮されません。BVCMを実現するための努力は、1.5°Cの目標に沿った企業のバリューチェーンの脱炭素化に置き換えたり、先延ばしにしたりしてはなりません。BVCMはそれよりむしろ、企業がバリューチェーンにおける削減以上のことを行うためのメカニズムなのです。

本書に定める提案は、SBTi企業ネットゼロ基準 (R9) にあるBVCM提案を支援し、インテグリティが高く、影響力の大きいBVCM戦略の策定と実施に関する提案を企業に提供するためのものです。

本書の発行時において、SBTiにはBVCMの主張を検証する計画はありません。なかでも、自主的炭素市場の十全性イニシアチブ (VCMI) など、BVCM関連の主張を定義しようとする動きがすでにあつたことを考えると、なおさらです。



BVCMはそれよりむしろ、企業がバリューチェーンにおける削減以上のことを行うためのメカニズムなのです

BVCMに関する事業性評価

BVCMへの資金供与が適切に行われた場合、さまざまな機会が生まれ、将来的なリスクを軽減し、長期的な価値を保護しながら向上させることができます。BVCMに関する事業性の評価は、企業が事業を展開する地域、市場、業界によって異なり、最終的には気候変動に関連する物理的環境の変化やそれに伴う政策、金融市場、消費者市場、社会、技術の変化により企業が受ける影響の範囲によって決まります。

BVCMの目標と原則

以下に示すBVCMの目標と原則は、影響力が大きく、インテグリティの高いBVCM活動や投資に向かって企業が進んでいく方法について提案するために作成されたものです。

図 1：BVCMの目標と原則

BVCMの目標



2020年代半ばに地球規模での炭素排出がピークに達し、2030年までに地球規模での炭素排出を半減させるためのさらなる短期的な緩和成果を提供する



初期段階の気候ソリューションや、それらを可能とするような活動の規模拡大に向けて追加資金を投入し、今世紀半ばまでに世界中でネットゼロを達成するために必要な構造的な変革を切り開く

BVCMの原則



規模：
緩和の成果を
最大限に引き出す



資金ニーズ：
資金不足の緩和活動に
重点を置く



共同便益：
SDGsに資する



気候正義：
格差への対処

BVCM戦略の策定と実施に関する推奨事項

以下の図2と表1は、BVCM戦略の策定と実施に関して企業がとることができるステップについて表しています。SBTi は、企業が定期的に自社のBVCM に関するコミットメントと戦略について見直しを行うよう提案しています。その意味で、4つのステップは循環的な性質をもっています。表に示された各ステップの詳細は、BVCM の報告書全文に記載されています。

図 2： インテグリティが高く、影響力の大きいBVCM戦略を策定し、実施するための4つのステップの概観



表1：ステップ・バイ・ステップの推奨事項の概要

ステップ1：ネットゼロ目標の設定と実施に向けた取り組み	
<p>1.1: SBTi企業ネットゼロ基準に従って、詳細なGHGインベントリを作成し、開示する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全社的なスコープ1と2のGHG排出量の少なくとも95%を対象とする包括的な排出インベントリを作成し、そこに完全なスコープ3インベントリを含める。 ○ GHGインベントリを毎年更新する。 ○ 独立した第三者機関によるGHGインベントリの検証を毎年受ける。 ○ GHGインベントリと検証報告書を、会社の財務諸表、ウェブサイト、CDP質問書を通じて毎年公表する。
<p>1.2: 科学的根拠に基づくネットゼロ目標の設定、提出、検証、開示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基準と提案事項一式については、SBTi企業ネットゼロ基準をご覧ください。
<p>1.3: ネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、それに向けて取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移行計画タスクフォース (TPT) の推奨事項に従ってネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、進捗状況の報告も含めて毎年更新する。
ステップ2：BVCMコミットメント	
<p>2.1: 事業性評価とBVCMにおける戦略目標を決定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ BVCMがどのように機会を引き出し、将来的なリスクを最小化し、企業の長期的価値を守り、高めることができるのか、その方法について検討する。 ○ BVCMにおける戦略目標について定義する。 ○ バリューチェーン内外の気候変動対策に関する全体的かつ戦略的なアプローチを促進するために、BVCMの戦略目標を企業の気候移行計画と関連する開示に統合する。
<p>2.2: BVCMコミットメントの期間について定義する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来を見据えたコミットメント期間を決定する。対象とする期間は5年以上が望ましい。 ○ BVCMコミットメント期間について公表する。 ○ BVCMコミットメントを定期的に見直す。

ステップ2：BVCMコミットメント

2.3: BVCMコミットメントの規模について定義する

- SBTiは、BVCMに対する「支払い能力」が（採算性の余地の違いに基づいて）業種によって異なることを認識しているため、BVCMを推進するために企業が行う取り組みすべてを歓迎します。SBTiはまた、認証基準またはクレーム基準の要件がBVCMコミットメントの規模を決定し得ることについても認識しています。参考までに、SBTiは、企業が以下を行う場合のアプローチについて説明しています。
- a. 科学的根拠に基づく炭素価格を、スコープ1、2、3の未対策の排出量に毎年或いは定義されたコミットメント期間に適用して、企業の科学的根拠に基づく目標の範囲を超えた気候変動対策に対する資金予算を決定する。
- b. この予算は、短期的なBVCMの成果（BVCMの目標1に沿ったもの）と長期的なBVCMの資金（BVCMの目標2に沿ったもの）を組み合わせたものに加え、より広範なカテゴリの気候変動対策への資金提供用を使用する。
 - 目安として、SBTiは、企業がこの予算の一部を使い、その企業の未対策であるスコープ1、2、3の排出量の少なくとも50%に相当する短期的なBVCM成果（tCO₂eで測定されたもの）を達成することを提案しています。これらの排出削減と除去については、独立した第三者機関が標準化された方法論を用いて検証すること、かつ、広く認められている質の高い基準を遵守することが推奨されます。
 - この提案に整合できない企業のために、SBTiは、BVCMコミットメントの規模を決定するための別の方法の事例も提供しています。

ステップ3：BVCMを達成するために行動を起こす

3.1: BVCM活動と投資に関する品質基準とガードレールについて定義する

- 追加性、持続性を確保し、リーケージや二重計上を避けるため（該当する場合）、最低限の品質基準を遵守する。
- BVCMの活動が社会や環境に悪影響を及ぼさないよう、セーフガードに関する原則を定め、それらを遵守し、開示する。

3.2: BVCM活動のポートフォリオに資源と資金を投入する

- 本書で定義されたBVCMの目標と原則に従って、最も必要とされるところに資金と資源を投入する。
- 企業のBVCM活動と投資がどのようにSBTiのBVCM目標と原則に整合しているかについて公表する。

ステップ4：BVCMの活動と成果に関する報告

4.1: BVCMの測定、報告および検証 (MRV) のフレームワークを確立し、一定期間にわたるBVCMの資金提供の結果として緩和の成果を測定、報告および検証する

- BVCM MRVのフレームワークを作成し、一定期間にわたるBVCMの資金提供の結果として緩和の成果を測定、報告および検証します。
- BVCMの活動や投資について評価し、保証するために、既存の基準や報告の枠組みを参照します。
- BVCMによる緩和の成果は、排出削減または除去の介入の正確性と完全性について評価する独立した第三者による検証を受けます。
- 炭素クレジットがBVCMを導入する際のメカニズムとなる場合、クレジットは、独立した第三者が高品質の炭素基準のプロトコルに従って検証する必要があります。
- 既存の基準がない場合は、国際的に認められた保証基準に従って、承認された監査人が独自に保証できるBVCM特有の指標と測定基準を開発し、開示するものとします。
- 年次の検証証明書または報告書を公表します。

4.2: BVCMの活動、投資、成果について毎年報告する

- BVCMに向けて投資された資金、緩和のための介入および成果、提供された共同便益について年次ベース（企業のGHGインベントリの報告期間に合わせて）で報告します。排出削減・除去とは、別々に報告します。
- 年次CDP質問書、年次財務諸表、年次持続可能性報告書またはウェブサイトを通じて、BVCMの活動と投資について報告します。
- 上記のステップ2.3の推奨事項に整合できなかった企業には、自社の未対策の排出量に関する温室効果ガスの外部性について報告することが推奨されます。これは、科学的根拠に基づく炭素価格をスコープ1、2、3の排出量に適用し、それらの排出量の総額から、BVCMやより広範な気候変動対策（適応、損失と損害）のために投入された資金を差し引いたものを報告することを意味します。
- その他のステップ：
 - ステップ 1.1:** GHGインベントリと検証報告書を、会社の財務諸表、ウェブサイト、CDP質問書を通じて毎年公表する。
 - ステップ 1.2:** SBTiの企業ネットゼロ基準に従い、認定された自社のネットゼロ目標の詳細および目標に対する進捗状況を毎年開示する。
 - ステップ 1.3:** 移行計画タスクフォース（TPT）の推奨事項に従ってネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、進捗状況の報告も含めて毎年更新する。

ステップ4：BVCMの活動と成果に関する報告

4.2: BVCMの活動、投資、成果について毎年報告する

ステップ 2.1: BVCMの戦略目標を、自社の気候移行計画および関連する開示内容に統合する。

ステップ 2.2: 指定された期間にわたり、将来を考慮したBVCMコミットメントを公表する。

ステップ 2.3: 炭素価格を適用する場合、企業はこの価格の算出元、または選択した価格の正当性について報告しなければならない。

ステップ 3.1: BVCMの活動が社会や環境に悪影響を及ぼさないよう、セーフガードに関する原則を定め、それらを保証し、開示する。

ステップ 3.2: 企業のBVCM活動と投資がいかんしてSBTiのBVCM目標と原則に整合しているかについて公表する。

ステップ 4.1: BVCMの成果に関する年次の検証証明書または報告書を公表する。

ステップ 4.2: 透明性をもって正確に企業のBVCMの取り組みを伝える。それはヘッドラインの主張を、BVCMコミットメントの規模の妥当性、関連する活動や投資のポートフォリオ、およびBVCMの活動や投資のガードレールについて確固たる説明と明確な報告により裏付けることで可能となる。

4.3: 透明性のある正確なBVCM主張を行う

- 主張は、該当する法域内で効力を有する環境主張に関する法律または規制に準拠していることを確認する。
- 事業目的および規制の内容に照らして、BVCM主張の種類（補償（compensation）または貢献（contribution）主張）を選択する。
- （BVCMコミットメントのような）ヘッドラインの主張を詳細の内容や、文脈、そして主張の限界などの細やかなニュアンスを含めて説明する。
- BVCMの主張が、インテグリティが高く意欲的な環境主張の一般的な要件を満たしていることを確認する。VCMIIは「気候緩和に関する主張の信頼性に関する原則」を定めています。ここにおける主張とは、以下のとおりであることが期待されます：
 - ・ 対象者にとって明確であること
 - ・ 保守的であること
 - ・ 透明性を保つこと
 - ・ 関連性があり、誤解を招くものではないこと
 - ・ 追跡可能であること
 - ・ 有益な情報であること
 - ・ 真実であり、検証可能であること
 - ・ 対象者に適切なインセンティブを与えるものであること⁹
 - ・ 正確であること
- 可能な限り、企業はBVCMの主張が外部の監査または認証を受けていることを確保してください。



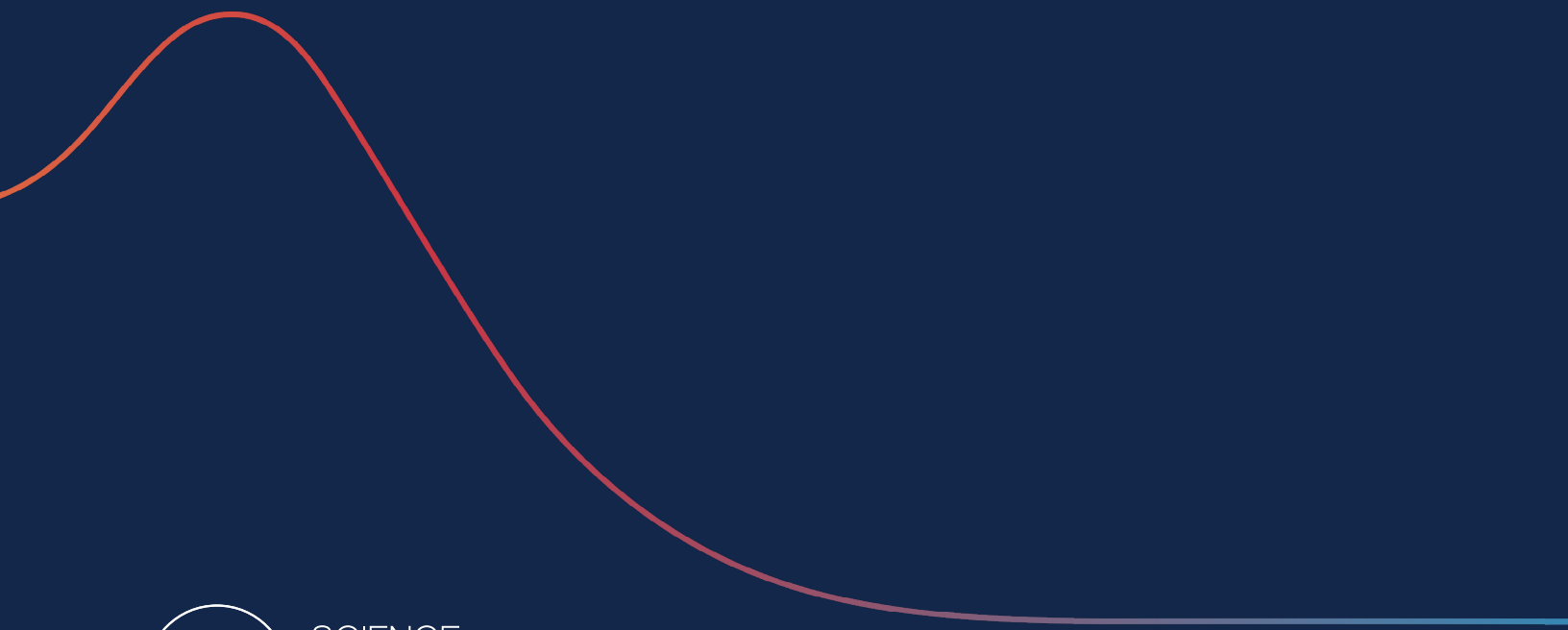
詳細については、「[さらなる高みを目指して：バリューチェーンを超えた緩和 \(BVCM\) の策定と実施に関するSBTi報告書](#)」を参照してください。



参考文献

参考文献

- 1 Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). (2022). Summary for Policymakers. In: Climate Change 2022 – Mitigation of Climate Change: Working Group III Contribution to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change. <https://doi.org/10.1017/9781009157926.001>
- 2 IPCC. (2023). Summary for Policymakers. In: Climate Change 2023 – Synthesis Report. A Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change. Contribution of Working Groups I, II and III to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change. https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/downloads/report/IPCC_AR6_SYR_SPM.pdf
- 3 Rockström, J., Gupta, J., Qin, D. et al. (2023). Safe and just Earth system boundaries. Nature. <https://doi.org/10.1038/s41586-023-06083-8>
- 4 Munich RE. (2023). Climate change and La Nina driving losses: the natural disaster figures for 2022. <https://www.munichre.com/en/company/media-relations/media-information-and-corporate-news/media-information/2023/natural-disaster-figures-2022.html>
- 5 Climate Policy Initiative (CPI). (2023). Global Landscape of Climate Finance 2023. <https://www.climatepolicyinitiative.org/wp-content/uploads/2023/11/Global-Landscape-of-Climate-Finance-2023.pdf>
- 6 IPCC. (2022). Climate Change 2022 – Mitigation of Climate Change: Working Group III Contribution to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change. https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/downloads/report/IPCC_AR6_WGIII_FullReport.pdf
- 7 United Nations Environment Programme (UNEP). (2022). State of Finance for Nature: Time to Act – Doubling investment by 2025 and eliminating nature-negative finance flows. <https://wedocs.unep.org/20.500.11822/41333>
- 8 Science Based Targets Initiative (SBTi). (2023). SBTi Corporate Net-Zero Standard. <https://sciencebasedtargets.org/resources/files/Net-Zero-Standard.pdf>
- 9 Voluntary Carbon Markets Integrity Initiative (VCMI). (2023). Claims Code – Supplementary Guidance. <https://vc-integrity.org/wp-content/uploads/2023/11/Claims-Code-Supplementary-Guidance-November-2023.pdf>



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

ご質問等は次の連絡先にお問い合わせください:
info@sciencebasedtargets.org



@ScienceTargets



/science-based-targets



Science Based Targets

sciencebasedtargets.org

Partner Organizations:



United Nations
Global Compact



WORLD
RESOURCES
INSTITUTE



In collaboration with:

